

岩手山の火山活動に関する 火山噴火予知連絡会統一見解

平成11年（1999年）10月以降の岩手山の火山活動状況は以下のとおりである。

○地震・微動

地震活動は、この1年程特に大きな変化なく経過しており、1998年より少ないもののそれ以前よりは多い状態が続いている。

1999年11月12日に振幅の大きな火山性微動が発生し、同時に地震が多発したが、2時間ほどで微動前の状態に戻った。地震の震源は姥倉山－黒倉山地域の地表から深さ2～3kmであった。その後、西岩手山の浅い地震活動に特に変化はない。

東側のやや深い低周波地震（深さ6～13km）が12月から増加傾向にある。深い低周波地震（深さ約30km）は1999年11月まで多い状態だったが、12月以降は少ない。

○地殻変動

GPS観測によれば、全体として特に大きな変化はないものの、山体西側では引き続きごく小さな膨脹が見られる。体積歪計、傾斜計でも微弱な変動が継続している。

○噴気活動

1999年前半から大地獄谷－黒倉山－姥倉山地域を中心に次第に噴気地帯の拡大や噴気量の増大が続いている。また、黒倉山頂の噴気温度も上昇している。

このように、岩手山では11月12日に大きな火山性微動があり、12月からは東側のやや深い低周波地震が増加しているものの、地震活動や地殻変動は相対的に落ち着いた状態にある。しかし、西岩手山の噴気活動は活発化する傾向が見られ、今後これが水蒸気爆発などにつながる可能性もあり、火山活動の推移を注意深く見守る必要がある。